

<離乳食のATP(RLU)テスト値>



- 対象建材
Pタイル
(フィニッシュ塗布済み)
- 対象面積
5.0㎡
- RLU数値
660,422

【嘔吐物(離乳食)】

市販品である「離乳食」のATP数値を測定。嘔吐物の代替として使用した。現実的には人体の分泌液等(胃酸や唾液等)を含んではない。尚、体内で測定可能な人体部位として口腔内を測定したところ、RLU数値は**359, 177**を計測した。いずれにしてもRLU数値による清浄度合は6桁の状況であった。

<コットンモップでモッピング後の床面数値>



- 作業時間
40秒
- RLU数値
190,132

【コットン/ポリエステル繊維混紡モップ&水道水】

混紡繊維での除染作業では、除去が想像以上にできていないことが理解できる結果となる。また、作業上において目視でも嘔吐物(離乳食)が残っていることが確認できるレベルのため何度も除染作業をしなくてはならないことになった。

<マイクロファイバーモップで拭いた後の床面数値>



- 作業時間
20秒
- RLU数値
3,483

【マイクロファイバー繊維モップ&水道水】

マイクロファイバー繊維での除染作業は非常有効であるといえる結果となる。EPA(米国環境保護局)での2002年10月に発表された報告内容を改めて裏付ける。

<RA35B10洗浄後>



- 作業時間
15秒
- RLU数値
135

【自動床洗浄機(赤パッド&洗浄剤)】

ATPによる数値は極めて清浄度合が高い結果となる。「機械化」による効果は作業効率のみならず、除染作業という観点からそれ以上汚染を拡散させない手段として非常に有効といえる。

<ドラゴンMSパフイング後>



- 作業時間
20秒
- RLU数値
117

【自動洗浄機洗浄後パフマシン(ナチュラル/ポリ繊維パッド)】

ATPによる数値上の差異はほとんどみられない結果となる。美観上においては光沢感が向上しており、また汚れの付着が洗浄のみと比べてしにくくなる効果は認められる。

<結果として>

- 通常素材の綿モップによる除染作業は作業効率が良くないだけでなく、嘔吐物などの汚れを「拡散」させる危険と清浄度合いをむしろ悪化させている。
- 「機械化」することは除染作業効率を向上させるだけでなく、清浄度合いを飛躍的に向上させることができる。**(6桁 ⇒ 3桁 対数減3の清浄度)モップより1000倍清潔**

- まな板、包丁の洗浄合格値はRLU500以下。調理師の手指は1500以下。それよりも床は清潔にできる

